

機械器具 39 医療用鉗子  
一般医療機器 鉗子 10861001

## 門脈再建吻合鉗子

## 【警告】

- ① 本品表面に衝撃や振動を用いて印を刻み込む等の二次加工はしないこと。[折損の原因となる]
- ② 本品を変形あるいはキズをつける等の粗雑な取扱い及び改造を行わないこと。[製品の寿命を著しく低下させる]

## 【禁忌・禁止】

- ① 本書記載の【使用目的又は効果】以外の使用目的には使用しないこと。[誤った使用法は本品の折損その他予期せぬ事象を招くおそれがある]

## 【形状・構造及び原理等】

## 1. 概要

本品は、互いに結合部をもつワンペアの鉗子により構成されており（結合部に穴を持つものを「メス側」、結合部にピンを持つものを「オス側」という）、術中に両鉗子を結合・分離させながら使用することにより、門脈系再建の際の血管切離・吻合操作を容易にする。

## 2. 形状、構造



## 3. 原理

結合部に設けられたピンにより、オス側・メス側の鉗子が結合され、血管の切離・吻合を容易にする。

## 4. 組織・体液に接触しうる部位の原材料

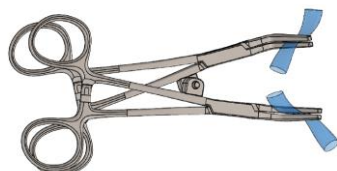
本体：ステンレス鋼

## 【使用目的又は効果】

本品は門脈系の再建の際に用いる鉗子である。

## 【使用方法等】

1. 肝臓側（門脈下流側）に鉗子メスを掛け、腸管側（門脈上流側）に鉗子オスを掛け門脈を切除する。
2. 肝臓側の鉗子にある結合穴と腸管側の鉗子にある結合ピンを結合させる。
3. 門脈と上腸間膜静脈を適当な幅に寄せ吻合する。



4. 吻合後、鉗子の結合を解除し、それぞれの鉗子を外す。

本品は出荷時、未滅菌であるため、使用前及び再使用前には適切な方法で洗浄し、以下の条件又は各医療機関で検証された条件により高圧蒸気滅菌を行い、滅菌後の無菌性の保証については、各医療機関にて行うこと。

## 洗浄・滅菌方法の代表例

以下に洗浄・滅菌方法の代表例を示したが、洗浄・滅菌に当たっては院内の規定に従うこと。

## 洗浄方法代表例

- (1) 製造元の指示に従い、医療機器用の中性洗剤を準備する。
- (2) 柔らかい毛のブラシあるいは柔らかく清潔な布で、洗浄液に浸したまま手で本品を洗浄する。可動部は念入りにブラシで洗浄する。
- (3) 温水で少なくとも 1 分以上流し、十分にすすぐ。
- (4) 洗浄後、目視にて血塊等がないことを必ず確認する。
- (5) 清潔な柔らかい布を用い、完全に水気を取る。

## 滅菌方法代表例

## 高圧蒸気滅菌（日本薬局方／微生物殺滅法）

115～118℃	30分間
121～124℃	15分間
126～129℃	10分間

## 【使用上の注意】

## 重要な基本的注意

- ・本品は特に取り扱い、洗浄・滅菌方法、保存状態により、腐食、損傷、破損、掻きキズなどを生じさせる恐れがあるので注意すること。又、異常が見られる状態（腐食、ひび、欠け、曲り、磨耗）では使用しないこと。

## 【保守・点検に係る事項】

- ・日常点検及び使用前点検を行い、正常に作動していることを必ず確認すること。
- ・本品の使用後は血液、体液が乾燥する前に直ちに洗浄を行うこと。
- ・血液や残片物を取り除き、稼動部分が全て十分に洗浄されているかを確認すること。また、洗浄時に他の器具との接触による損傷をさせないように配慮すること。
- ・洗浄後は直ちに乾燥させ、湿った状態で必要以上に長時間放置しないこと。ステンレス鋼は錆びにくい材質ではあるが、保存条件によっては腐食が発生することがある。
- ・本品が漂白剤、消毒液等の塩素及びヨウ素を含む溶液にさらされた場合には、直ちに流水で洗浄すること。

この添付文書は、本品を安全にご使用いただくためのものです。  
この添付文書をよくお読みになり、内容を十分ご理解された上で

機械器具 39 医療用鉗子  
一般医療機器 鉗子 10861001

## 門脈再建吻合鉗子

---

ご使用ください。

### 【製造販売業者又は製造業者の氏名又は名称及び住所等】

〔製造販売業者〕

高砂医科工業株式会社

〒113-0033 東京都文京区本郷 3-42-2

お問い合わせ窓口：

TEL:03-3815-0156 FAX:03-3815-5361